科目名	初等図画工作Ⅰ			担当教員	教員 桂川 成美		
単位	1単位	講	<b></b>		ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己	2形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7					
実務経験	教諭(講師含む	(c)					
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	食を生かし、	図画工作科における教	<b>対師の役割、児童の表現の理解</b>	について講義、演習を行	<b>〒う。</b>	
到達目標及びテーマ				て理解することと、自身の表現 \学校教育における教科の意義		どもの表現を理解し評価するこ	
授業の概要			制作、総合演習等を行 演習を通して学ぶ。	<b>亍い、自らの美術表現の基礎能</b>	力を高める。さらに、ス	k彩絵の具等の特性と使用法、	
授業計画							
第1回	教科の目的と	内容。教室用	目の説明。 小学校に	おける教科の目的について考	える。		
第2回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-観て描くということ				
第3回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-理解して描く				
第4回	色彩基礎-色	についての理	2解を深める。				
第5回	色彩基礎一色	による表現の	広がり。				
第6回	平面構成「構	図に注目して	∑」−構図による効果				
第7回	平面構成「構	図に注目して	[] - 構成について理	解を深める。			
第8回	技法演習ーに	じみ、マーフ	ブリング、ドリッピン· 	グ(水彩絵の具を中心として)			
第9回	技法演習ーデ	カルコマニー	-、スパッタリング、.	スクラッチ、フロッタージュ	(クレヨンを中心として	) 画材の特性や技法の理解。	
第10回	立体構成「動	き、量」-自	然物のデッサン 				
第11回	立体構成「動	き、量」-テ	ヴッサンを基にした紙.	工作による立体制作。立体的な	よ見方を身につける。		
第12回	総合造形演習	「素材との出	会い」-身近な材料	を組み合わせる(ビニール、糺	<b>モコップ</b> )		
第13回	総合造形演習	「素材との出	会い」-共同制作	素材の良さに気づきそれを	生かした表現活動。		
第14回	鑑賞演習「日:	本と西洋」	美術史の概論的理	解。			
第15回	身近な道具の	使用法	基礎的な道具の使い方 	と注意点の理解。 まとめ(1	~15回の内容について)		
事前学修	0.5時間			画面構成の工夫を見つける。 指定する画材の購入。	立体の視点での自然物の	の観察。色彩基礎の確認。美術	
事後学修	0.5時間	0.5時間 配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術 史の復習。					
フィードバックの方法	個別にコメント	· するほか、	総合評価を説明する。				
成績	評価方法			割合 (%)		評価基準等	
定	期試験			0%		 実施しない	
上記以外の	試験・平常点評値	<u> </u>		100%	授業への参	加度50%、提出物50%	

補足事項

が十分かなど。

1	12
- 1	12

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作(			担当教員	<b>以</b>		
単位	1単位	講	<b></b>		ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己	2形成					
アクティプ・ラーニングの要素	グループワーク	7					
実務経験	教諭(講師含む	3)					
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	食を生かし、	図画工作科における教	師の役割、児童の表現の理解	について講義、演習を行	ĪÒ.	
到達目標及びテーマ				理解することと、自身の表現 学校教育における教科の意義		どもの表現を理解し評価するこ	
授業の概要			制作、総合演習等を行 演習を通して学ぶ。	い、自らの美術表現の基礎能	力を高める。さらに、ス	k彩絵の具等の特性と使用法、	
授業計画							
第1回	教科の目的と	内容。教室用	月の説明。 小学校に	おける教科の目的について考え	える。		
第2回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-観て描くということ				
第3回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-理解して描く				
第4回	色彩基礎-色	についての理	1解を深める。				
第5回	色彩基礎一色	による表現の	)広がり。				
第6回	平面構成「構	図に注目して	[] - 構図による効果 				
第7回	平面構成「構	図に注目して	∑」−構成について理角	解を深める。			
第8回	技法演習ーに	じみ、マーフ	「リング、ドリッピンク 	ブ (水彩絵の具を中心として)			
第9回	技法演習ーデ	カルコマニー	-、スパッタリング、フ	スクラッチ、フロッタージュ	(クレヨンを中心として	) 画材の特性や技法の理解。	
第10回	立体構成「動	き、量」-自	l然物のデッサン 				
第11回	立体構成「動	き、量」-テ	「ッサンを基にした紙コ	C作による立体制作。立体的な 	:見方を身につける。		
第12回	総合造形演習	「素材との出	出会い」−身近な材料を	を組み合わせる(ビニール、紙	〔コップ)		
第13回	総合造形演習	「素材との出	会い」-共同制作 	素材の良さに気づきそれを生	とかした表現活動。 		
第14回	鑑賞演習「日	本と西洋」	美術史の概論的理解	解。			
第15回	身近な道具の	使用法 基	基礎的な道具の使い方	と注意点の理解。 まとめ(1	~15回の内容について)		
事前学修	0.5時間		ポスターなどを見て、 身近な道具を見直す。		立体の視点での自然物の	の観察。色彩基礎の確認。美術	
事後学修	0.5時間	配布物の復 史の復習。	習と授業の振り返り。	立体制作のポイントを整理す	る。デッサン抽象表現り	こついての理解を深める。美術	
フィードパックの方法	個別にコメント	· するほか、;	総合評価を説明する。				
成績	諫評価方法		Ę	割合(%)		評価基準等	
定	期試験			0%		実施しない	
上記以外の	試験・平常点評値	<u>т</u>		100%	授業への参	加度50%、提出物50%	

補足事項

が十分かなど。

1	12
- 1	12

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作 I			担当教員	担当教員 児玉 宗之		
単位	1単位	講	<b></b>	·	ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己	已形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7					
実務経験	教諭(講師含む	(c)					
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。					
到達目標及びテーマ				で理解することと、自身の表現 ☆学校教育における教科の意義		どもの表現を理解し評価するこ	
授業の概要			制作、総合演習等を行 演習を通して学ぶ。	「い、自らの美術表現の基礎能	力を高める。さらに、ス	k彩絵の具等の特性と使用法、	
授業計画							
第1回	教科の目的と	内容。教室用	月具の説明。 小学校に	おける教科の目的について考え			
第2回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-観て描くということ				
第3回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-理解して描く				
第4回	色彩基礎-色	についての理	<b>単解を深める。</b>				
第5回	色彩基礎一色	による表現の	広がり。				
第6回	平面構成「構	図に注目して	∑」−構図による効果				
第7回	平面構成「構	図に注目して	【」-構成について理解	解を深める。			
第8回	技法演習ーに	じみ、マーフ	<sup>ブ</sup> リング、ドリッピンク	グ(水彩絵の具を中心として)			
第9回	技法演習ーデ	カルコマニー	-、スパッタリング、2	スクラッチ、フロッタージュ(	(クレヨンを中心として	) 画材の特性や技法の理解。	
第10回	立体構成「動	き、量」-自	l然物のデッサン				
第11回	立体構成「動	き、量」- <i>テ</i>	デッサンを基にした紙 <sup>工</sup>	工作による立体制作。立体的な	見方を身につける。		
第12回	総合造形演習	「素材との出	会い」-身近な材料を	を組み合わせる(ビニール、紐	(コップ)		
第13回	総合造形演習	「素材との出	会い] -共同制作 	素材の良さに気づきそれを生	生かした表現活動。 		
第14回	鑑賞演習「日:	本と西洋」	美術史の概論的理	解。			
第15回	身近な道具の	使用法 基	基礎的な道具の使い方	と注意点の理解。 まとめ(1~	~15回の内容について)		
事前学修	0.5時間			画面構成の工夫を見つける。 指定する画材の購入。	立体の視点での自然物の	の観察。色彩基礎の確認。美術	
事後学修	0.5時間	配布物の復 史の復習。	習と授業の振り返り。	立体制作のポイントを整理す	る。デッサン抽象表現に	こついての理解を深める。美術	
フィードパックの方法	個別にコメント	· するほか、	総合評価を説明する。				
成績	諫評価方法		<u> </u>	割合 (%)		評価基準等	
定	期試験			0%		 実施しない	
上記以外の	試験・平常点評値	Б		100%	授業への参	加度50%、提出物50%	
	15344 - 431-2	- 1	<b>瞎 - ロ   エ・ナロ - キル</b>		*/		

補足事項

が十分かなど。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作I				担当教員	高田 吉朗		
単位	1単位	講	<b></b>	講義		ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己	放科教育 自己形成						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7						
実務経験	教諭(講師含む	3)						
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	倹を生かし、	図画工作科における	教師の行	<b>殳割、児童の表現の理解</b>	について講義、演習を行	īō.	
到達目標及びテーマ					することと、自身の表現 数育における教科の意義		どもの表現を理解し評価するこ	
授業の概要			制作、総合演習等を 演習を通して学ぶ。	行い、	自らの美術表現の基礎能	力を高める。さらに、フ	k彩絵の具等の特性と使用法、	
授業計画								
第1回	教科の目的と	内容。教室用	月の説明。 小学校	における	ら 教科の目的について考;	える。		
第2回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-観て描くということ	<u> </u>				
第3回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-理解して描く					
第4回	色彩基礎一色	についての珥	1解を深める。					
第5回	色彩基礎一色	による表現σ	広がり。					
第6回	平面構成「構	図に注目して	∑」−構図による効∮	₹				
第7回	平面構成「構	図に注目して	∑」−構成について類	里解を深	める。			
第8回	技法演習ーに	じみ、マーフ	「リング、ドリッピン 	ング(水	彩絵の具を中心として)			
第9回	技法演習ーデ	カルコマニー	-、スパッタリング、	スクラ	ッチ、フロッタージュ	(クレヨンを中心として	) 画材の特性や技法の理解。	
第10回	立体構成「動	き、量」-自	然物のデッサン 					
第11回	立体構成「動	き、量」-テ	ヴッサンを基にした約	氏工作に	よる立体制作。立体的な	見方を身につける。		
第12回	総合造形演習	「素材との出	会い] -身近な材料	斗を組み	合わせる(ビニール、約	<b>モ</b> コップ)		
第13回	総合造形演習	「素材との出	会い] -共同制作	素材	ƒの良さに気づきそれを∮	生かした表現活動。 		
第14回	鑑賞演習「日:	本と西洋」	美術史の概論的	理解。				
第15回	身近な道具の	使用法	基礎的な道具の使い	方と注意	気点の理解。 まとめ(1	~15回の内容について)		
事前学修	0.5時間		ポスターなどを見て 身近な道具を見直す			立体の視点での自然物の	の観察。色彩基礎の確認。美術	
事後学修	0.5時間	配布物の復 史の復習。	習と授業の振り返り	。立体	制作のポイントを整理す	る。デッサン抽象表現り	こついての理解を深める。美術	
フィードバックの方法	個別にコメント	· するほか、	総合評価を説明する	0				
成績	評価方法			割合	(%)		評価基準等	
定	期試験			09	6		 実施しない	
上記以外の記	試験・平常点評値	<b>T</b>		100	)%	授業への参	加度50%、提出物50%	

補足事項

が十分かなど。

1	12
- 1	12

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作I				担当教員	早矢仕 晶子		
単位	1単位	講	義区分			ナンバリング	ED1SRE104	
期待される学修成果	教科教育 自己	已形成						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7						
実務経験	教諭(講師含む	3)						
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	倹を生かし、	図画工作科における	教師の役	) 別、児童の表現の理解	について講義、演習	を行う。	
到達目標及びテーマ					「ることと、自身の表現 対育における教科の意義		子どもの表現を理解し評価するこ る。	
授業の概要			制作、総合演習等を演習を通して学ぶ。	行い、自	目らの美術表現の基礎能	力を高める。さらに	、水彩絵の具等の特性と使用法、	
授業計画								
第1回	教科の目的と	内容。教室用	用具の説明。 小学校に	こおける	教科の目的について考え	える。		
第2回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-観て描くということ	<u>:</u>				
第3回	鉛筆デッサン	「描く力」-	-理解して描く					
第4回	色彩基礎-色	についての理	里解を深める。					
第5回	色彩基礎一色	による表現の	の広がり。					
第6回	平面構成「構	図に注目して	て」-構図による効果	=				
第7回	平面構成「構	図に注目して	て」-構成について理	解を深る	める。			
第8回	技法演習ーに	じみ、マーフ	ブリング、ドリッピン	/グ(水流	彩絵の具を中心として)			
第9回	技法演習ーデ	カルコマニー	-、スパッタリング、	スクラ	ッチ、フロッタージュ	(クレヨンを中心とし	て) 画材の特性や技法の理解。	
第10回	立体構成「動	き、量」-自	自然物のデッサン					
第11回	立体構成「動	き、量」-ラ	デッサンを基にした網	氏工作に、	よる立体制作。立体的な	(見方を身につける。		
第12回	総合造形演習	「素材との出	出会い」-身近な材料	料を組み1	合わせる(ビニール、糺	<b></b> もコップ)		
第13回	総合造形演習	「素材との出	出会い」-共同制作	素材	の良さに気づきそれを	生かした表現活動。		
第14回	鑑賞演習「日	本と西洋」	美術史の概論的理	里解。				
第15回	身近な道具の	使用法	基礎的な道具の使いフ	方と注意	点の理解。 まとめ(1	~15回の内容につい	7)	
事前学修	0.5時間		ポスターなどを見て 身近な道具を見直す			立体の視点での自然	物の観察。色彩基礎の確認。美術	
事後学修	0.5時間	0.5時間 配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術 史の復習。						
フィードバックの方法	個別にコメント	、するほか、	総合評価を説明する	0				
rt 24	[評価方法			割合(	%)		評価基準等	
	朝試験			0%				
	試験・平常点評値			1009			の参加度50%、提出物50%	
	工能以外の試験。十吊点計画							

補足事項

が十分かなど。

4	10
-1	1/
•	, -

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

科目名	初等図画工作I				担当教員 西村 志磨						
単位	1単位	講	義区分	講義		ナンバリング	ED1SRE104				
期待される学修成果	教科教育 自己	数科教育 自己形成									
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	ブループワーク									
実務経験	教諭(講師含む	改諭 (講師含む)									
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割、児童の表現の理解について講義、演習を行う。									
到達目標及びテーマ		美術の基礎理論・技法・道具の使用法等について理解することと、自身の表現力を高めることで、子どもの表現を理解し評価することができる。表現、鑑賞体験を重ね、幼稚園、小学校教育における教科の意義と役割りを理解できる。									
授業の概要			は制作、総合演習等を る演習を通して学ぶ。	行い、	自らの美術表現の基礎能	力を高める。さらに、	水彩絵の具等の特性と使用法、				
授業計画											
第1回	教科の目的と	内容。教室周	用具の説明。 小学校	における	る教科の目的について考	える。					
第2回	鉛筆デッサン	「描く力」・	一観て描くということ	٢							
第3回	鉛筆デッサン	「描く力」・	一理解して描く								
第4回	色彩基礎一色	についてのヨ	理解を深める。								
第5回	色彩基礎一色	による表現の	の広がり。								
第6回	平面構成「構	図に注目し <sup>-</sup>	て」-構図による効果	果							
第7回	平面構成「構	図に注目し <sup>-</sup>	て」-構成についてヨ	理解を深	₹める。 						
第8回	技法演習ーに	じみ、マー	ブリング、ドリッピン	ング(水	彩絵の具を中心として)						
第9回	技法演習ーデ	カルコマニ・	ー、スパッタリング、	スクラ	ッチ、フロッタージュ	(クレヨンを中心として	<ul><li>ご) 画材の特性や技法の理解。</li></ul>				
第10回	立体構成「動	き、量」-	自然物のデッサン								
第11回	立体構成「動	き、量」-:	デッサンを基にした約	紙工作に	よる立体制作。立体的な	↓見方を身につける。 					
第12回	総合造形演習	「素材との	出会い」-身近な材料	料を組み	合わせる(ビニール、糺	<b></b>					
第13回	総合造形演習	「素材とのは	出会い」-共同制作	素材	すの良さに気づきそれを	生かした表現活動。					
第14回	鑑賞演習「日	本と西洋」	美術史の概論的	理解。							
第15回	身近な道具の	使用法	基礎的な道具の使い	方と注意	意点の理解。 まとめ(1 	~15回の内容について	)				
事前学修	0.5時間		るポスターなどを見て 身近な道具を見直す			立体の視点での自然物	の観察。色彩基礎の確認。美術				
事後学修	0.5時間 配布物の復習と授業の振り返り。立体制作のポイントを整理する。デッサン抽象表現についての理解を深める。美術史の復習。										
フィードバックの方法	個別にコメント	するほか、	総合評価を説明する	00							
10000000000000000000000000000000000000	 [評価方法			割合	(%)		評価基準等				
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			09	· ·		実施しない				
		 <u>5</u>		100		授業への参					

補足事項

が十分かなど。

4	10
-1	1/
•	, -

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
つくる・見る・学ぶ 美	京都市立芸術大学美術教育研 究室	日本文教出版	978-536-64999-5	なし
参考資料				

	1										
科目名	初等図画工作    担当教員 早矢仕 晶子										
単位	1単位	講義	医分				ナンバリング	ED3SRE105			
期待される学修成果	教科教育 自	教科教育 自己形成									
アクティブ・ラーニングの要素	グループワー	グループワーク									
実務経験	教諭(講師を	教諭(講師を含む)									
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。									
到達目標及びテーマ		刀等図画工作 I を踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。									
授業の概要	デザイン、絵	画、立体、版画	画、鑑賞等の	演習をおこな	う。技法、技術、	創造的原	思考の修得に加え、制作	作の過程の重要性を知る。			
	数利の日的と	内容 数字	田目の説明	音》的に )	 ごりくみ、自己の	主羽た切	1 Z				
第1回	教件の日的と	四谷。叙至、	用具の説明。	息飲的にで	- りくみ、日亡の	衣児で扮	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~				
第2回	デザイン演習	<sup> </sup> 「ポスター、 	カード制作」	ーデザインの 	意味 						
第3回	デザイン演習	゚゚ヿ゙゚ポスター、	カード制作」	一参考例の鑑	賞						
第4回	デザイン演習	「ポスター、	カード制作」	一本制作 ラ	デザインする意味	を考える	0				
第5回	絵画演習「人	物画、風景画	i、静物画」-	−主題について							
第6回	絵画演習「人	.物画、風景画	i、静物画」-	-画材の活用							
第7回	絵画演習「人	物画、風景画	i、静物画」-	表現技法							
第8回	立体演習「カ	ービング、モ	・デリング」-	−立体表現の可	能性						
第9回	立体演習「カ	ービング、モ	・デリング」-	-粘土での制作	Ē						
第10回	立体演習「木	工、金工、陶	芸」一匠の抗	技鑑賞							
第11回	立体演習「木	工、金工、陶	芸」一テラコ	コッタ粘土での	制作。彫塑、工	芸に関す	る技法、表現の理解。				
第12回	版画演習「凸	版、凹版」一	版画技法につ	ついて							
第13回	版画演習「凸	版、凹版」一	·木版画 構図	図・彫り							
第14回	版画演習「凸	版、凹版」一	·刷りの効果。	版画技法の理	解						
第15回	鑑賞演習 鍶	監賞の楽しみ方	īを理解し、 <sup>-</sup>	子供の鑑賞活動	かのあり方につい	て考える	0				
事前学修	0.5時間				から見つめる。う動の実践。指定			工芸作品の鑑賞 。作品の構想を			
事後学修	0.5時間	初等図画工作	作丨の復習。	作品制作の過	程を振り返り考え	察を深める	 る。技法についてまと&	カ理解を深める。			
フィードバックの方法	個別にコメン	トするほか、糸	総合評価を説	明する。							
درار خشم	<b>≠</b> 〒			Ф11 Л	(0/)			11.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1			
	責評価方法  Ξ期試験			割合 割合 09				評価基準等 			
		価									
補足事項	試験・平常点評価 100% 授業への参加度50%、提出作品50% 授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。										
	1										
教科書											
書名				出月	版社 ———————		ISBN	備考			

つくる・見る・学ぶ美術の ほん	のき 京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作 I の教科書と同 じ
参考資料				

利日夕	────────────────────────────────────			担当教員		 桂川 成美					
科目名 ——————————— 単位	初寺凶岡工作   	I  講義区分		担ヨ教具		性川	ED3SRE105				
<sup>単位</sup>  期待される学修成果		教科教育 自己形成									
が行される子	グループワーク										
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									
実務経験を生かした		学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。									
授業内容 到達目標及びテーマ		  等図画工作   を踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができ。  。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。									
授業の概要		る。また、									
授業計画											
第1回	教科の目的と	内容。教室、用具の説明	月。 意欲的に	とりくみ、自己の	)表現を招	<b>早る。</b>					
第2回	デザイン演習	「ポスター、カード制作	F」―デザインの	)意味							
第3回	デザイン演習	「ポスター、カード制作	F」一参考例の錚	<b>監賞</b>							
第4回	デザイン演習	「ポスター、カード制作	F」一本制作	デザインする意味	を考える	, ) <sub>0</sub>					
第5回	絵画演習「人	物画、風景画、静物画」	一主題について	5							
第6回	絵画演習「人	物画、風景画、静物画」	一画材の活用								
第7回	絵画演習「人	物画、風景画、静物画」	一表現技法								
第8回	立体演習「カ	ービング、モデリング」	一立体表現の同	丁能性							
第9回	立体演習「カ	ービング、モデリング」	一粘土での制化	F							
第10回	立体演習「木	工、金工、陶芸」一匠の	)技鑑賞								
第11回	立体演習「木	工、金工、陶芸」一テラ	ラコッタ粘土での	D制作。彫塑、工	芸に関す	る技法、表現の理解。					
第12回	版画演習「凸	版、凹版」一版画技法に	こついて								
第13回	版画演習「凸	版、凹版」一木版画 構	構図・彫り								
第14回	版画演習「凸	版、凹版」一刷りの効果	具。版画技法の理	里解							
第15回	鑑賞演習 鑑	賞の楽しみ方を理解し、 	子供の鑑賞活動	動のあり方につい	て考える	, ) <sub>0</sub>					
事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、 練る 。美術館、ギャラ					工芸作品の鑑賞 。作品の構想を				
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習	。作品制作の過	程を振り返り考	察を深め	る。技法についてまと	 め理解を深める。				
フィードバックの方法	個別にコメント	│ 〜するほか、総合評価を	説明する。								
成総	 責評価方法		割合	(%)			評価基準等				
	定期試験     0%     実施しない										
上記以外の	記以外の試験・平常点評価 100% 授業への参加度50%、提出作品50%										
補足事項							適切か、持参する画材等の準備				
教科書	1										
教科書 		 著者	出			ISBN	備考				
		• • •									

つくる・見る・学ぶ美術の ほん	のき 京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作 I の教科書と同 じ
参考資料				

科目名	初等図画工作I				担当教員		河西 栄二				
<u> </u>	1単位		養区分				ナンバリング	ED3SRE105			
サロー 											
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	<u>י</u>									
実務経験	教諭(講師を含	数論 (講師を含む)									
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。									
到達目標及びテーマ		]等図画工作   を踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができ 。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。									
授業の概要	デザイン、絵画	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。									
155 AHC = 1											
授業計画											
第1回	教科の目的と	内容。教室、	、用具の説明。	。 意欲的にる	こりくみ、自己の	表現を摂	深る。 ————————————————————————————————————				
第2回	デザイン演習	「ポスター、	、カード制作	」 <i>一</i> デザインの	意味						
第3回	デザイン演習	「ポスター、	、カード制作	」一参考例の鑑	賞						
第4回	デザイン演習	「ポスター、	、カード制作	」一本制作	デザインする意味	‡を考える	3.				
第5回	絵画演習「人	物画、風景	画、静物画」	一主題について	-						
第6回	絵画演習「人	物画、風景	画、静物画」	一画材の活用							
第7回	絵画演習「人	物画、風景i	画、静物画」	一表現技法							
第8回	立体演習「カ	ービング、	モデリング」	一立体表現の可	能性						
第9回	立体演習「カ	ービング、	モデリング」	一粘土での制作	Ē						
第10回	立体演習「木	工、金工、「	陶芸」一匠の	技鑑賞							
第11回	立体演習「木	工、金工、「	陶芸」一テラ	コッタ粘土での	制作。彫塑、工	芸に関す	<sup>-</sup> る技法、表現の理解 。				
第12回	版画演習「凸	版、凹版」	一版画技法に	ついて							
第13回	版画演習「凸	版、凹版」-	一木版画 構	図・彫り							
第14回	版画演習「凸	版、凹版」	一刷りの効果。	。版画技法の理	網						
第15回	鑑賞演習 鑑	賞の楽しみ	方を理解し、	子供の鑑賞活動	かのあり方につい	ヽて考える	3.				
事前学修	0.5時間				から見つめる。:			工芸作品の鑑賞 。作品の構想を			
事後学修	0.5時間	初等図画コ	 Ľ作Ⅰの復習。	作品制作の過	程を振り返り考	察を深め	る。技法についてまとと	カ理解を深める。			
フィードバックの方法	個別にコメント	トするほか、	総合評価を記	説明する。							
<b> </b>	評価方法			割合	(%)			評価基準等			
								〒			
	上記以外の試験・平常点評価       100%       授業への参加度50%、提出作品50%										
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の						適切か、持参する画材等の準備				
教科書											
				开!	 饭社		ISBN	備考			
							.2=	C. rud			

つくる・見る・学ぶ美	術の基	京都芸術大学美術教育研究会 なし	日本文教出版	978-4-536-64999-5	初等図画工作1の教科書と同じ
参考資料					

科目名	初等図画工作I			担当教員		齋藤 正人					
単位	1単位	講義区分				ナンバリング	ED3SRE105				
期待される学修成果	教科教育 自己	<u>教科教育</u> 自己形成 									
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7									
実務経験	教諭(講師を含	や論(講師を含む)  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	<b>学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。</b>									
到達目標及びテーマ		D等図画工作   を踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができ 。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。									
授業の概要	デザイン、絵画	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。									
授業計画											
第1回	教科の目的と	内容。教室、用具の説明	月。 意欲的に	とりくみ、自己の	)表現を探	<b></b> そる。					
第2回	デザイン演習	「ポスター、カード制作	F」―デザイン <i>0</i>	D意味							
第3回	デザイン演習	「ポスター、カード制作	F」―参考例の錚	監賞							
第4回	デザイン演習	「ポスター、カード制作	F」一本制作 ·	デザインする意味	を考える	00					
第5回	絵画演習「人	物画、風景画、静物画」	一主題について								
第6回	絵画演習「人	物画、風景画、静物画」	一画材の活用								
第7回	絵画演習「人	物画、風景画、静物画」	一表現技法								
第8回	立体演習「カ	ービング、モデリング」	一立体表現の同	丁能性							
第9回	立体演習「カ	ービング、モデリング」	一粘土での制作	F							
第10回	立体演習「木	工、金工、陶芸」―匠の	)技鑑賞								
第11回	立体演習「木	工、金工、陶芸」一テラ	ラコッタ粘土で <i>0</i>	D制作。彫塑、工	芸に関す	る技法、表現の理解。					
第12回	版画演習「凸	版、凹版」一版画技法に	こついて								
第13回	版画演習「凸	版、凹版」一木版画 植	<b>靖図・彫り</b>								
第14回	版画演習「凸	版、凹版」一刷りの効果	県。版画技法の理	里解							
第15回	鑑賞演習 鑑	賞の楽しみ方を理解し、	子供の鑑賞活動	動のあり方につい	て考える						
事前学修	0.5時間	身近なものを色、形、 練る 。美術館、ギャラ					工芸作品の鑑賞 。作品の構想を				
事後学修	0.5時間	初等図画工作Ⅰの復習	。作品制作の過	程を振り返り考	察を深め	る。技法についてまと	め理解を深める。				
フィードバックの方法	個別にコメント	│ 〜するほか、総合評価を	説明する。								
成績	 [評価方法		割合	(%)			評価基準等				
	定期試験 0% 実施しない										
上記以外の	以外の試験・平常点評価       100%       授業への参加度50%、提出作品50%										
補足事項	授業への参加度とは、各課題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備が十分かなど。提出課題に未提出があった場合は、失格となる。						適切か、持参する画材等の準備				
₩1.1 <del>3</del>											
教科書 —————————— 書名			н	 版社		ISBN	備考				
= 1			· w^ 1=			C. (21)A					

つくる・見る・学ぶ美術の ほん	のき 京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作 I の教科書と同 じ
参考資料				

科目名		I			担当教員		高田 吉朗	
<u>14日日</u>  単位	1単位		 義区分				ナンバリング	ED3SRE105
ザー  期待される学修成果			30 E 73					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク							
実務経験	教諭(講師を含	<u> </u>						
実務経験を生かした 授業内容	学校現場の経験	学校現場の経験を生かし、図画工作科における教師の役割や、児童の表現の理解について講義演習を行う。						
到達目標及びテーマ	初等図画工作   を踏まえ、創造的思考や技能を培うことを通して、こどもにとっての表現の意味や意義について考えることができる。また、鑑賞教育の可能性について理解できる。							
授業の概要	デザイン、絵画、立体、版画、鑑賞等の演習をおこなう。技法、技術、創造的思考の修得に加え、制作の過程の重要性を知る。							
授業計画								
第1回	教科の目的と	 内容。教室、	用具の説明	。 意欲的にと	こりくみ、自己の	)表現を排		
第2回	デザイン演習	「ポスター、	カード制作					
第3回	デザイン演習	デザイン演習「ポスター、カード制作」一参考例の鑑賞						
第4回								
第5回		デザイン演習「ポスター、カード制作」一本制作 デザインする意味を考える。						
	絵画演習「人物画、風景画、静物画」一主題について							
第6回	絵画演習「人物画、風景画、静物画」一画材の活用 							
第7回 	絵画演習「人物画、風景画、静物画」一表現技法 							
第8回	立体演習「カービング、モデリング」一立体表現の可能性							
第9回	立体演習「カービング、モデリング」一粘土での制作							
第10回	立体演習「木工、金工、陶芸」一匠の技鑑賞							
第11回	立体演習「木	立体演習「木工、金工、陶芸」一テラコッタ粘土での制作。彫塑、工芸に関する技法、表現の理解。						
第12回	版画演習「凸版、凹版」一版画技法について							
第13回	版画演習「凸	版画演習「凸版、凹版」一木版画 構図・彫り						
第14回	版画演習「凸	版画演習「凸版、凹版」一刷りの効果。版画技法の理解						
第15回	鑑賞演習 鑑賞の楽しみ方を理解し、子供の鑑賞活動のあり方について考える。							
事前学修	身近なものを色、形、用途などの視点から見つめる。遠近法についての予習。彫刻、工芸作品の鑑賞 。作品の構想を 練る 。美術館、ギャラリーでの鑑賞活動の実践。指定の画材の購入。							
事後学修 0.5時間 初等図画工作 I の復習。作品制作の過程を振り返り考察を深める。技法についてまとめ理解を深				カ理解を深める。				
7.4-ドバックの方法 個別にコメントするほか、総合評価を説明する。								
₩ おおおお		割合(%) 評価基準等						
成績評価方法 定期試験 上記以外の試験・平常点評価				0%		実施しない		
			100% 授業への参加度50%、提出作品50%					
補足事項	題の目標に対して意欲的な取り組みが見られるか、教室用具の取り扱いが適切か、持参する画材等の準備 未提出があった場合は、失格となる。							
教科書								
書名				出版社	ISBN		備考	
						1		_

つくる・見る・学ぶ美術の ほん	のき 京都市立芸術大学美術教育研 究会	日本文教出版	978-4-536-64999—5	初等図画工作 I の教科書と同 じ
参考資料				